

## 2. 講道館柔道資料館の現状と課題

講道館／講道館柔道資料館 桐生 習作  
総合警備保障株式会社 生田 秀和

キーワード：講道館柔道資料館、保存、展示、調査、研究

## 2. Current status and issues of the Kodokan Judo Museum

Shusaku KIRYU (Kodokan Judo Institute/Kodokan Judo Museum & Library)  
Hidekazu SHODA (Sohgo Security Services CO., LTD)

Key words : Kodokan Judo Museum, Conservation, Exhibition, Research, Education

### Abstract

The purpose of this study is therefore to assess the current status and issues of the Kodokan Judo Museum and draft a report that will serve as a foundation for future expansion. Based on a review of relevant documents, the following three items have been established as central areas of consideration for this study. The items reviewed included the previous museum director's files, as well as the Kodokan's bulletins and business reports. According to this survey, exhibition and conservation are most important function for expanding the Kodokan Judo Museum. Results are follows;

- According to the English captions of the exhibition, they are not completely. Museum's issues are completing the English captions, and preparing multilingual captions for foreign visitors.
- Illumination of the exhibition rooms were so high for paper materials. The issue is exchanging the LED lights for risk relief by fluorescent ones.
- The number of foreign visitors has surpassed the number of Japanese visitors to the museum since 2013. In 2016, the museum recorded its highest attendance of 4,520 visitors, of whom 2,935 were from overseas and 1,585 were from within Japan.

The number of visitors has been increasing. The establishment and 30-year maintenance

of Kodokan Judo Museum is an estimable feat, particularly considering that no similar budo-focused institutions appear to have existed previously. Moreover, as a proposition of the museum, there is a problem that we always have to think the balance of conservation and exhibition.

## 1. 緒言

日本政府観光局は訪日外国人数の推移について2011（平成23）年から増加傾向にあり、2016（平成28）年にはおよそ2000万人に達したと報告している<sup>13)</sup>。この傾向は2020年東京オリンピックに向けて続くと思われる。こうした中、講道館は観光目的の来訪者のニーズにも応えられよう環境の整備に努めてきた。その一環として、2018（平成30）年に講道館国際柔道センター3階のホステルが改修され、同年3月16日からリニューアルオープンした。同年10月からは3ヶ月先までの空室状況を講道館HP上で公開するなど、サービスの向上に努めている。2019（平成31）年度には同館2階の講道館柔道資料館・図書館（以下柔道資料館）の改修も予定しており、柔道資料館の機能拡充に期待が寄せられている。

我が国の武道普及・振興事業<sup>12)</sup>を概観すると、大会や稽古会の実施、図書や映像資料の出版、国際交流事業等に比べ、武道に関する資料の収集、保存、展示といった博物館事業への取り組みは少ない。古流の保存と振興という点で、日本武道館主催の日本古武道演武大会や日本古武道協会の活動が果たしてきた役割は大きい。その一方で、博物館事業は資料を介して武道の文化や歴史を守り、恒常的に多くの人々に伝える機能がある。講道館では資料館に嘉納治五郎の稽古衣や最初の入門誓文帳などの資料を展示し、無料で公開している。これは柔道がいつから、そして誰が始めたのかという歴史的事実を守り、またそれを後世の人々に伝えるためである。歴史と伝統のある身体運動文化の保存と振興のためには、実技に関する事業だけでなく、博物館事業も重要である。

武道専門の博物館としては、1984（昭和59）年に設立された柔道資料館や、2017（平成29）年に設立された沖縄空手会館などが挙げられる。1984（昭和59）年以前に設置された武道博物館は見当たらなかったため、柔道資料館が武道における最初の博物館と推察される。柔道資料館の事業や業務内容を整理することは、当館の機能拡充のためにも、また武道文化の保存と振興を目的とした博物館事業のためにも貴重な資料になると考えられる。従って、本研究では柔道資料館の現状と現状と課題について検討した<sup>註1)</sup>。

## 2. 方法

本研究の目的を達成するため、3つの課題を設定し、文献資料を用いて考察した。

- ① 柔道資料館設立の経緯と実態
- ② 入館者数の推移と傾向（2007～2016年度）
- ③ 機能拡充に向けた課題

本研究では老松信一前図書資料部長のファイル、講道館発行の機関誌<sup>註2)</sup>、そして講道館事業報告書などを用いた。

## 3. 柔道資料館設立の経緯と実態

柔道資料館の基本情報について説明する前に、博物館の機能と特徴について確認しておきたい。

博物館は公民館や図書館と並ぶ社会教育施設の1つである。社会教育施設は学校以外で組織的に教育を行う施設である。藤田<sup>2)</sup>の論文を参考に、博物館と機能の特徴を図で示した(図1参照)。

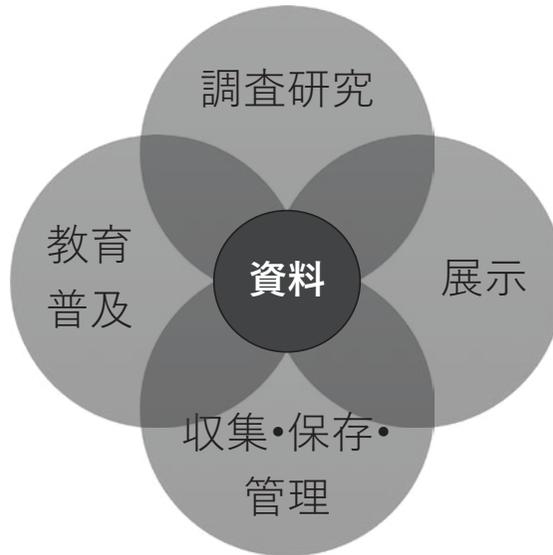


図1 博物館の機能と特徴

藤田昇治(1994)を参考に筆者が図を作成

博物館の特徴は実物資料を扱う点にあり、それが収集・保存・管理、展示、調査研究、教育普及といった4機能に深く関係している。収集は当館の趣旨に適った資料を集めること、保存・管理は資料の情報を把握し良い状態で後世に残すこと。展示は一定のストーリーを持たせて資料を配置することである。資料は時間、生物、熱、光、酸素などで劣化するため、展示と保存は二律背反の関係にある。これ以外に、資料の歴史的背景など正確な情報を集め、それらに基づいて地域や社会に教育普及活動を行うことなどが挙げられる。

博物館の運営や企画などには収蔵庫、作業室、展示室などの専門設備、そして学芸員や研究者などの専門スタッフ、その活動をバックアップするための組織や資金が不可欠である。こうした条件が整い、1984(昭和59)年4月、講道館創立百周年事業の一環として柔道資料館が設置された。設立の趣旨は以下の通り。

国際的に最高の権威をもつ柔道資料館としての内容を維持し向上させる。柔道の創始者嘉納治五郎師範にゆかりの貴重な歴史的遺物を中心に、柔道に関する資料をひろく蒐集保管し、組織的に陳列して一般に展覧する<sup>1)</sup>

2019(平成31)年1月現在、柔道資料館は講道館図書資料部に所属する4名(部長1名、職員3名(うち学芸員1名))の職員によって運営されている。現行のサービスは以下の通り<sup>8)</sup>。

### 1) 基本サービス

- ・資料館への入館（平日10～17時 土日祝日及び夏冬休業期間除く）
- ・レファレンス（口頭、電話、メール）
- ・コピー機の利用 有料（モノクロ30円/枚 カラー100円/枚）

### 2) 事前申請が必要なサービス

以下のサービスは事前に総務部に申請が必要

- ・総合学習等の利用
  - ・資料の2次利用
- 利用希望者が総務部へ申請し、許可された場合のみ

なお柔道資料館には図書館も併設されているが、本研究の目的とは異なるため、本稿では扱わない。

## 4. 講道館柔道資料館の入館者数（2007～2016年度）

柔道資料館創設の1984（昭和59）年から現在まで入館者数を記録してきた。柔道資料館の現状と課題の把握が本稿の趣旨であるため、2007（平成19）年度から2016（平成28）年度までの10年間の入館者数に限定して考察する。柔道資料館では受付に芳名録を設置し、入館者は記入後に入館する方式を採っている。芳名録には氏名、所属、住所、男性人数、女性人数の5項目があり、入館者が1名の場合は本人、団体の場合は代表者1名が記入する。記入された情報を元に、職員が国内男性、国内女性、海外男性、海外女性、合計という5種類の入館者数を算出する。なお、同じ人が2日間入館した場合は、入館者数2名と数えた。2007（平成19）年度から2016（平成28）年度までの利用者数をグラフで示した（図2参照）。

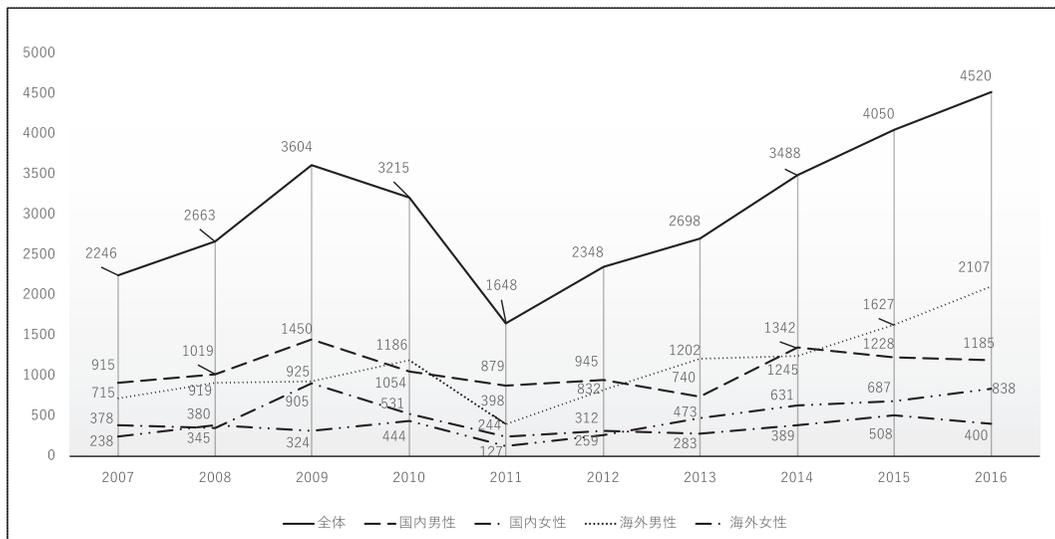


図2 入館者数の推移（2007～2016年度）

全体を見ると、2009（平成21）年度に前半のピークとなる3604名を記録したが、2011（平成23）年度に1648名に激減した。2011（平成23）年度は増加傾向となり、2016（平成28）年度は過去最高の入館者数4520名を記録した。2011（平成23）年度に急激に利用者が減少した背景には、同年3月11日に起こった東日本大震災の影響が考えられる。国内外の入館者数の割合を見ると、2013（平成25）年度に海外からの入館者が1675名（男性1202名・女性473名）となり、国内入館者数1023名（男性740名・女性283名）を大きく超えた。2016（平成28）年度は海外2935名（男性2107名・女性838名）、国内1585名（男性1185名・女性400名）と、両者の差は益々広がっている。緒言でも触れた通り、訪日外国人数は増加傾向にあり、柔道資料館にもその影響が示唆された。

国内と海外の入館者の傾向を見ると、国外の利用者が増加傾向にある一方、国内男性は2014（平成26）年度以降減少にあった。また国内女性も2009（平成21）年度以降は200から500の間で増減していた。2016（平成28）年度の国内女性入館者は全体の1割を切っており、日本人女性の柔道資料館に対する関心が低いことが示唆された。

最後に近年の入館者数と海外入館者数の傾向をみていきたい。2018（平成30）年4月1日から6月30日（うち、開館日数65日）の3ヶ月間の入館者数は合計1410名、日本人は447名、海外は963名であった。海外入館者数が全体のおよそ7割を占めており、52の国と地域<sup>註3)</sup>からの訪問があった。最も多かった国はフランスで202名（21%）、次はアメリカが105名（11%）、オーストラリアが71名（7%）であった。英語圏以外の来館者も多く、英語以外の言語の必要性が示唆された。

## 5. 機能拡充に向けた課題

『講道館百三十年沿革史』<sup>10)</sup>及び講道館図書資料部の業務記録等を元に、博物館の4機能における資料館の現状と課題を検討した。

### 1) 調査研究

資料調査は各資料に資料調査カード（A4サイズ）を作成し、収蔵庫内の資料の形態、内容、作成年代、伝来等を調査した。また資料の外観をデジタルカメラで撮影した。確認作業は終了し、現在はデータベース作成のため、職員1名が資料調査カードの情報を専用のPCへ入力している。入力中に気づいた点は講道館の機関誌等で確認し、資料調査カードに記された情報の修正・加筆を行いながら作業している。データベース完成後の公開方法は今後の課題である。

### 2) 展示

館内の展示は3室（展示室、殿堂、師範室）を中心に実施されている。2015（平成27）年10月に講道館主催の嘉納治五郎師範生誕祭（以下生誕祭）が開催されて以降、毎年展示室にて特別展示を行ってきた。2018（平成30）年は第29代内閣総理大臣犬養毅から嘉納宛ての書簡を館内に展示した。書簡は崩し字のため日本人でも読むことが難しいものであったが、凸版印刷株式会社との協力により、崩し字を判読するソフトを用い、タブレット画面で読むことができるシステムと共に展示した。

館外への展示としては、毎年12月に文京シビックセンターにおいて開催される文京ミュージアムフェスタに出展している。このイベントは「文の京ミュージアムネットワーク」（以下文京ミュージアムネット）の加盟施設が一堂に会して行われる。文京ミュージアムネットは区内の美術館、博物館、庭園等の37施設で構成されており、文京区や区内の博物館施設との交流を深めている。

今後の課題は多言語化と障害者への対応が挙げられる。前項で述べたように、海外からの資料館入館者は増加傾向にあり、その国と地域は30カ国以上を数える。展示品には英文キャプションがない展示もある他、和英以外の言語を扱っていない。また音声ガイド等、障害者に対するサービスが未検討の状態である。

### 3) 収集・保存・管理

2005（平成17）年に柔道資料館の一部改修工事を行い、収蔵庫の移転、移動式書架の設置、展示ケースの照明交換を行った。収蔵庫や展示ケース等の定期的な清掃を行い、環境の整備に努めている。近年、嘉納の揮毫などの資料の寄贈が増え、収蔵庫のスペース不足のため、保存や管理に苦慮している。2018（平成30）年には資料保存用の専用保存箱をおよそ50個購入し、資料を梱包して保存環境の改善に努めた。限られた予算の中ではあるが、資料のクリーニングや修復も随時実施している。

2017（平成29）年、照明業者から展示ケース内の照度の高さ、資料と照明との距離が近すぎるとの指摘があった。保存のためには展示ケース内の照明環境の改善が急務であったため、この指摘以降は展示ケース内の照明を使わないなど、資料に光の当たる時間を短くするとして対処した。

今後の課題は保存スペースの増設と展示ケースの照明環境の改善が挙げられる。いずれも資料館の一時間閉館を伴う工事になることが予想され、入館希望者への便宜を図るためにも、同時に着工して閉館期間を短くするなどの配慮が必要となるだろう。

### 4) 教育普及

展示の項で述べた通り、柔道資料館は文京ミューズネットに加盟し、定期的に合同展示や情報交換を行っている。加盟団体のチラシやポスターを館内で掲示し合うなど、広報を協力して行っている。海外入館者の中には日本庭園に関心のある者も多く、小石川後樂園、六義園、肥後細川庭園などから英語版パンフレットを取り寄せ、受付にて配布している。これが縁となり、2018（平成30）年9月には日アセアンJITA—KYOEIプロジェクト国際柔道セミナーの参加者であるアセアン諸国の柔道指導者約20名が肥後細川庭園を訪れ、茶道体験（ティーセレモニー）を行った。海外への日本文化の普及という点で、講道館と区内の博物館施設との良好な関係づくりを進めている。

年に数回程度ではあるが、区内の公立学校の授業協力も行っている。小学校の社会見学や中学校の総合学習等の受け入れも行っている。受け入れ件数は2007（平成19）年度の15件をピークに、それ以降は1～6件に減少している。また柔道に関するレファレンスも行っており、来館者のみならず電話やメールでも随時質問を受け付けている。2007（平成19）年度から2016（平成28）年度までの10年間、619件のレファレンスがあった。これ以外にも国内外の研究機関、出版社、新聞社、テレビ局から情報・資料提供依頼があり、その件数は2020年東京オリンピックに向けて増加傾向にある。

今後の課題は2020年東京オリンピックに向けたレファレンスや情報・資料提供の増加への対応が挙げられる。頻繁にある質問とその回答を講道館HP等に掲載するなどし、質問対応にかかる時間のロスを改善することが必要だと考える。

## 6. まとめ

柔道資料館の入館者は増加傾向にあった。武道の博物館の先行事例が見当たらない中、柔道資料館が30年以上も継続してきたことは一定の評価に値するだろう。但し、入館者内訳を見ると海外入館者が増加傾向にある一方、国内利用者、特に女性入館者数は伸び悩み傾向にあった。また博物館事業において資料の保存と展示のバランスは命題であり、収蔵スペースの減少やLED電球の登場など、状況の変化と館内の予算や時間に応じ、最適な環境づくりを考える必要がある。

海外入館者の増加に対し、多言語化は重要な要素であり、少なくとも英語キャプションの完備は必須であろう。資料修復は保存の面だけでなく、展示可能な資料のストックを増やす効果もあり、今後の展示替えや企画展などの幅を広げる上でも効果的だと考えられる。修復のための修復ではなく、常に博物館機能の拡充に有効な方策を論じることが重要である。

本研究により、訪日外国人数の増加と業務のバランスという2つの観点から、保存と展示を中心に機能拡充を進める有効性が示唆された。今後は同様の手法で講道館柔道図書館を調査し、資料館と共に機能拡充を図る上での課題を検討したい。

## 註

註1) 本稿執筆にあたり以下の研究を参考にした。

- Kiryu S, Current status and issues of the Kodokan Judo Museum, 2017 International Budo Conference. Kansai University.
- Kiryu S, Current status and issues of the Kodokan Judo Museum, Proceedings of the 2017 International Budo Conference, 186-187, 2017.

註2) 講道館およびその関連機関から発行された雑誌。1898(明治31)年に造士会から発刊された「国士」が最初であり、その後「柔道」、「有効の活動」、「大勢」、「柔道界」、「作興」などが発行された。2019年3月現在刊行されている「柔道」は、1930(昭和5)年4月から発行されているもの。

註3) 2018(平成30)年4月1日～6月30日(うち、開館日数65日)の間の柔道資料館入館者の中、海外来訪者数は963名。国と地域の内訳は以下の通り。

フランス, アメリカ, オーストラリア, カナダ, ドイツ, イギリス, イタリア, スペイン, オランダ, ブラジル, クロアチア, スイス, フィリピン, ポーランド, ニュージーランド, ベルギー, インドネシア, キューバ, ロシア, 中国, メキシコ, イラン, オーストリア, スロバキア, セルビア, 台湾, ルクセンブルグ, アルゼンチン, イスラエル, ハンガリー, マレーシア, デンマーク, フィンランド, モンゴル, エストニア, 韓国, コロンビア, スウェーデン, チェコ, トルコ, ノルウェー, 南アフリカ, インドネシア, ギリシャ, チリ, トルクメニスタン, パラオ, ウクライナ, ウズベキスタン, カザフスタン, シリア, シンガポール(参照「一口メモ<sup>122</sup> 講道館柔道資料館 外国人訪問者数」, 『柔道』第89巻第11号, 2018)。

- 1) 文京区立肥後細川庭園。公園だより。息抜き庭園とお抹茶体験。 <https://parks.prjf.or.jp/higo-hosokawa/bulletin/2018/09/> (参照2018-10-30)。
- 2) 藤田昇治「博物館の教育的昨日とSTS教育」博物館雑誌第22号, 14-22, 1994。
- 3) 「十分間閑談 柔術図解と南摩落」, 『柔道』第31巻第12号, 1943。
- 4) 嘉納治五郎師範生誕祭ワーキンググループ「嘉納治五郎師範生誕祭」, 『柔道』第89巻第12号, 2018。

- 5) 「嘉納師範生誕百年記念 柔道展」, 『柔道』 第31巻第12号, 1960.
- 6) Kiryu S, Current status and issues of the Kodokan Judo Museum, 2017 International Budo Conference. Kansai University.
- 7) Kiryu S, Current status and issues of the Kodokan Judo Museum, Proceedings of the 2017 International Budo Conference, 186-187, 2017.
- 8) 「講道館の活動紹介 第5回」, 『柔道』 第79巻第11号, 2008.
- 9) 「講道館創立五〇年記念祭の記」, 『柔道』 第6巻第1号, 1935.
- 10) 講道館『講道館百三十年沿革史』講道館, 2012.
- 11) 『講道館国際柔道センター建設計画』老松信一氏所有ファイル, 講道館蔵.
- 12) 日本武道館. <http://www.nipponbudokan.or.jp/shinkoujigyou> (参照2018-10-30).
- 13) 日本政府観光局統計. 月別・年別統計データ (訪日外国人・出国日本人). [http://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor\\_trends/](http://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/) (参照2018-10-30).
- 14) 老松信一「講道館案内 資料館・図書館」, 『柔道』 第55巻第1号, 1984.